

## IV-1

## 活動等を分かりやすくするために

## (1) 学習や生活への見通しをもてるように

児童生徒が「持てる力を発揮」するためには、児童生徒が見通しをもちやすく、安心して学習できるような環境作りが大切です。児童生徒が自分のなすべきことを意識したり、課題が達成できたという成就感を味わったりすることで、より主体的な活動が促されます。

## ○ 見通しをもった取組を促すために

- ・ 1 週間の学習予定をある程度一定にして、分かりやすく伝える。
- ・ 1 日の授業時間の区切りを分かりやすくする。
- ・ 学習で何をするのかが「見て分かる」ような手掛かりを工夫する。
- ・ 児童生徒が心理的に不安定になりやすい場合、学習の予定を急に変えたりしないようにする。

## (2) 児童生徒の能力を最大限に発揮できる状況を作り出すために

児童生徒自身が成功経験を積むことができるよう、どのような特性（得意、不得意）があり、どのような手段で補えば、苦手さや困難さを克服できるかを考えることは非常に重要です。



## 学びへのアクセスとは

- ・ 学習活動への参加をスムーズにし、障がいによる障壁をなくし、児童生徒の能力を最大限に発揮できる状況を創り出すこと。

※これらはいずれも「合理的配慮」に通じるものです。

こちらのリーフレット一覧を  
参照してください。



「もしかして、それ…二次的な障害を生んでいるかも…？」  
独立行政法人国立特別支援教育総合研究所（令和3年3月）

## (3) 活動等を分かりやすくするための構造化

構造化は、概念化や情報を整理・統合することに困難さがある児童生徒（自閉症など）が課題をどのように遂行すべきかを理解したり、活動の手順を示すことにより見通しをもって活動に取り組んだりするために有効です。

## 【構造化とは】

今何をする時間か、次にどうなるのかなど、活動の仕組みを児童生徒に分かりやすく示す方法

平成27年度 強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）指導者研修資料

#### (4) 構造化の例

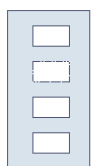
##### ① 物理的な構造化

教室内の机や棚などの配置の工夫をします。

- ・物理的、視覚的に分かりやすい境界
- ・活動と場所の1対1対応



##### ② 時間の構造化



【次の行動のみを提示】



【絵カードと文字】



【文字】



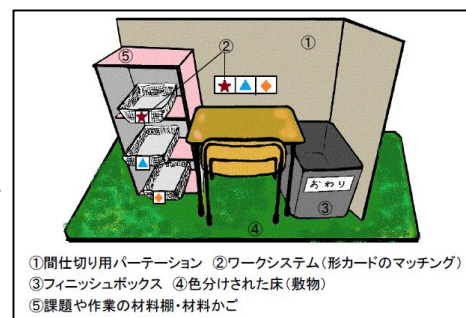
【文字のリスト】

児童生徒一人一人に合ったものを作ることが大切です。

##### ③ 活動の構造化

活動の流れを視覚的に理解しやすくします。  
(ワークシステム)

- ・「何を」 ・「いつまで」 ・「どのくらい」
- ・「どのようなやり方で」
- ・「終わったら次に何をするか」



【ワークシステムの一例】

##### ④ 一連の流れの構造化



【朝の準備確認表】

一連の流れを同じ手順で習慣化することで、普段の生活を安定して送れるようにします。

##### ⑤ 課題の構造化



【マッチング】



【組み立て】



【事務仕事】

学習で取り組む1つ1つの課題について、どのような手順で、どのように行い、どうなると終わるのかを分かりやすくします。